

東京新聞
東部繁榮會候補者(一)(續)

石橋	大村	梶原	田末	釘井	淵清	古上	近藤	木島
新三郎	太郎	次郎	義助	貞次	梅五郎	佐兵衛	平兵衛	島平
君	君	君	君	君	君	君	君	君

金七十餘圓になり郷里への送金は僅毛。町二丁目山根千太郎。三山山町二丁目二十番。江戸野馬場所不定。西乙一。山草。愛牛乳搾取販賣會。藤井好太郎。店員として事件は十六日。城地方裁判所に於て懲役八ヶ月に處せらる。

船夫。密匿。仁川。尾島前に錨留し九の松町。岡本石橋所有の船内。船住吉火を焚き疾に脱ぎ乍ら本朝に至り窓裏にて死し居るを他船の者が見付訴へ出たり其節より出張取調中。

土木課長。山花町二丁目中村富太郎。是十六日午後四時頃須賀町海岸裏の池で溺死。遺體は同日午二時、須賀町衛生局に御送り。總括。厄運なり。諸事謹んで。来年が明かぬ日は。親切な

◎遠きは郵便近きは即時!!

臺に會員五百六十餘名の賛助を得豫想外の稱賛を博せる本會は客年十一月を以て會員所定の提供を了へたるを以て好評噴々再度開催方を促されしも時歲稍に屬し百事匆忙延びて今日に至り茲に二年頭員の認可を得流行を遂ふて提供種目を一新し再第三回會員を募集せんとして若夫方法の輕便なると品質價格の正廉とは江湖既に定評あれば更に陳々するを要せざるべし

幸に本會を利用して調度の便を得んと欲せらるゝの士女は規定書に據り陸續御入會あらんとを

月賦 京城時計興振會 提出

明治四十四年一月

